

第3学年

Hop! Step! Jump!

文京区立九第中学校

第3学年 学年通信

第5号

平成31年4月26日

作文紹介

三年一組 仲 東子 「三年生」

三年生となり最上級生になったという気持ちがじわじわとしてきました。私が三年生になってやっていきたいことは後輩に優しくすることと、メリハリをつけることです。

一年生の時、私は三年生が怖かったです。三年生の性格が怖かったというわけではなく、三年生という存在が怖いと感じていました。小学校では無かったしっかりとした、先輩後輩という立場で緊張していたということもあるかもしれません。程遠い存在で、あまりしゃべることができませんでした。今はたくさんしゃべっておけばよかったと、少し後悔しています。そうならないために、一年生の名前をしっかりと覚えて優しく接し、たくさんしゃべりたいと思います。

三年生は高校受験を控え、学校でも家でも塾でも徐々に勉強づくしの日々になっていきます。そんな生活が続いていくと息がつかなくなってしまいます。だからこそ、今の時期や休み時間などでたくさん遊んで、少しでも息抜きができるような時間が自分にとって必要だと思います。しかし、そのためには授業では全身で先生の話を受け止めて吸収し、授業でやった内容はその日の内に覚えることなどはやるというメリハリを大事にしていきたいです。

今までは三年生の背中を見て育ち、三年生の後を追ってきました。しかし、今は見る背中も追う背中もありません。自分自身で道を切り開き、一年生と二年生に尊敬されるような、背中で語れるような三年生になれるようにしていきたいです。

三年二組 鶴岡 竜也 「三年生としての自覚」

僕は三年生になって楽しみなことがたくさんある。それは運動会と修学旅行だ。

運動会の種目には、リレーや組体操などがある。リレーでは新しいクラスになり、まだ団結力もないなかで戦うのは大変だと思う。しかし、練習ではバトンパスの練習をしっかりとこない、かけ声をかけ合っていけばきっと団結力も高まり、笑顔もたくさん出ると思う。組体操では、三年生になってみんなをまとめなければいけないという気持ちと四段タワーを成功させたい、という気持ちがある。今まで先輩たちが四段タワーを成功させてきて、不安や緊張もたくさんあると思うが三年生全員の気持ちがそろえば、きっと成功させることができると思う。そのために練習から盛り上げて、自分にできる精一杯の力を発揮したいと思う。

僕は二年生の時に失敗をしてしまったので、今後そのようなことがないようにすると決めている。この修学旅行が最後のチャンスだと思うのでしっかりと反省を生かして修学旅行に臨みたい。修学旅行ではおいしい料理を食べたり、歴史ある伝統的な建物を見たりしたい。自然と触れ合う大事な機会でもあると思うので一日一日を大切に過ごしていきたい。鹿との触れ合いも楽しみだ。

最後に、三年生になり、最高学年としての自覚をもち、この一年間が楽しく、かけがえのない思い出になるようにしていきたい。そして、何事も自分で考えて行動する力を身につけて、後輩にも教えられるような先輩になりたい

三年三組 鎌田 吉成 「ナンバーワン」になるために

「ナンバーワンにならなくてもいい。もともと特別なナンバーワン」

今では言わずと知れたこのフレーズ。2016年に解散したS.M.A.Pの「世界に一つだけの花」の一節である。初めてこの言葉を聞いたときに、受験を控えた中学三年生にぴったりの言葉だと思った。

「世界に一つだけの花」は小学校の音楽の授業で習い、知った歌だ。習ったときは小学校四年生くらいだったので、歌詞には特に何も感じなかった。先生から歌詞の説明をされたのだろうが、自分のことに置き換えるということはしなかった。仮に、置き換えていたところで四年生の自分にこの言葉があっていたとは思えない。受験という大きな壁が現れた今だからこそ、あっている言葉だと思う。

受験とは、自分の限界に挑戦する機会だと思う。自分がどれだけ頑張れるか、周りに見せるチャンスだと思う。自分に挑戦する、というのは、まさにこういうことだと思う。

僕には得意なことがないので、自分に自信を持ったことがない。そこで、この受験という大きなチャンスで、出し惜しみなく、全力を出し、自分に自信をつけたいのだ。そんな思いの中で「ナンバーワンにならなくてもいい。もともと特別なナンバーワン」という言葉を大切にしていきたいと思った。

僕はこの言葉の意味をそのまま大切にしていきたいわけではない。この言葉に対する自分なりの考えがある。それは「ナンバーワンを目指さないとナンバーワンにはなれない」ということだ。全力を出せなかった自分に対して、言い訳として「ナンバーワン」という言葉を使いたくないのだ。自分の全力を出し、限界に挑戦しないと「ナンバーワン」にはなれないのではないかと思う。

この一年、全力を出し、限界に挑戦していきたい。『ナンバーワン』になった。この言葉は自分自身そのものだと言える自信をつける一年にしたい。